

ええとこ
発見図

備中高松城水攻史跡・文英石仏遍路



「ええとこ発見図」は、自分たちの住んでいる「地域の良さ」を再発見しようという視点で作成したものです。作成過程で、地域を何度も歩くことにより普段見過ごしていた大切な資源を再確認しあい、話し合いを重ねて作りあげました。いろいろな人と知り合い、お互いを認めあうことで、この地域に住む人の「ええとこ」も再発見しました。そして、今まで以上に愛着が深まりました。この「ええとこ発見図」を利用して、ますます地域の絆が深まっていくことを願っています。

—作成者一同—

文英石仏

天文2年（1533）から天正10年（1582）の50年間に文英他数人の製作者により高松地区を中心として岡山県南部に造立されている。

永い風雪に耐え野辺にひっそりと佇む「石ぼとけ」目尻の上があった三日月目、三角形の団子鼻、おちょぼ口、幼児体型、その独特のスタイルは吉備固有のものである。表情は迫力に満ち、悲しみに耐えているようでもあり何か訴えかけているようでもある。素朴で親しみがあり、人間の温もりさえ感じさせる。

文英とは謎に包まれているが恐らくは、戦国末期に活躍した大人物であり、平山福成寺に縁故の深い僧で民衆の信仰組織、念仏講や座の中心人物として活躍したと思われる。

石仏は文英を先達として、戦いによる犠牲者の供養のために造立され戦国乱世の下で民衆の信仰対象として心の寄り所となってきた。

しかし、この地を領有した花房正成によって宗教弾圧は熾烈を極め、あるものは草むらの中に、又あるものはお堂の中にひっそりと人目を避けるように存在し、竹やぶの中に裏返っていて普通の石と見間違えるものもあり、多くは捨石として土中深く葬られ何百年の間、深く静かに掘り出される日を待っていた。今もなお数知れない石仏が、城跡の名残の蓮池に眠っているという。

石仏の特色は、宝性地蔵、十一面観音その他多種多様で、中でも多いのが延命地蔵である。

文英石仏としては最大級で、延命石仏である。乱世を生きる民衆の念仏講の先達として命がけで取り組んだ意気込み、執念が尊像の厳しい面相にかい見える。

寺院天保録に因れば「この石仏は田の中にあり、天文4年乙未5月日、念仏講中文英筆。畝6歩、除地なり」と記載されている。

建立当時から、花房の宗教弾圧を受けず奈良期の大寺「大崎廃寺の伽藍跡」のこの位置に祀られていると判断できる。

文英石仏

- | | | | |
|------------|----|-----------|----|
| 1 池の下観音堂 | 7体 | 14 平山大森家 | 1体 |
| 2 高松城址 | 1体 | 15 妙義山 | 1体 |
| 3 資料館 | 2体 | 16 和井元秋山家 | 2体 |
| 4 宗治公民館 | 1体 | 17 大崎廃寺跡 | 1体 |
| 5 星友寺 | 3体 | 18 遍照寺 | 3体 |
| 6 関野家の裏 | 4体 | 19 八幡様 | 1体 |
| 7 関野家 | 1体 | 20 檜村家 | 1体 |
| 8 原古才連福寺 | 2体 | 21 厄神堂 | 1体 |
| 9 鼓山下の道 | 1体 | 22 旧稲荷参道 | 3体 |
| 10 辻の入口の墓地 | 2体 | 23 板野家 | 1体 |
| 11 持宝院 | 2体 | 24 福成寺 | 1体 |
| 12 松風園 | 2体 | 25 水源地裏 | 1体 |
| 13 立田追谷 | 1体 | | |



11

持宝院 十一面観音石仏

経王山持宝院は真言宗の寺院で、天正10年の備中高松城水攻めの時には、羽柴秀吉の本陣として知られている。

文英の活躍は民衆の心をとらえ、その精神的な受容に応じて、はじめて身分を明かし「福成寺文英」「天文十四年（1545）五月吉日」と彫り込んだことが、この十一面観音仏の大きな特色の1つである。

「石仏書」による十一面観音の由来は、菩薩の不笑不嗔の善悪二様としている。

善を喜び、悪を怒る、文英精神の表現であると考えられる。



作成者
高松地区愛育委員会
岡山市保健所・北保健センター